

豚へのそばくず給与で飼料費の低減が可能で肉質も良好！

【1 成果の概要】

- (1) そばくず給与により肥育期間が若干延びるが飼料効率はほぼ同じ。
- (2) 皮下脂肪が若干厚くなる傾向があるが枝肉格付等級では差が見られず、ロース中の脂肪交雑（いわゆる「サシ」）が多く入り脂肪の質も良好である（表1）。
- (3) 豚肉を食べ比べると軟らかい傾向が見られるが大きな差は無し。
- (4) 豚1頭当たりの飼料費は最大で約3,000円低減可能（図1）。

表1 枝肉形質（皮下脂肪厚、脂肪色、肉色、MSおよびロース中脂肪含量）

試験区	脂肪厚			脂肪色			肉色			MS	ロース中脂肪含量
	肩	背	腰	L	a	b	L	a	b		
対照区	4.00	2.26	3.34	78.37	3.90	4.25	49.80	7.80	3.19	2.0 ± 0.3	3.0% ± 0.6%
そば25%	4.47	2.41	3.34	78.97	4.63	4.85	51.46	8.30	3.97	2.9 ± 0.9	4.5% ± 1.5%
そば50%	4.39	2.56	3.26	79.56	3.66	4.09	54.34	8.56	4.80	3.2 ± 1.1	5.1% ± 1.6%

※MS:NPPC(米国豚肉生産者協議会)による豚肉の脂肪交雑の度合を表すもので、1(無い、ほとんど無い)~5(適度に豊富またはそれ以上)までである。



対照区 (No.616)
(MS=2.0 Fat=2.9%)



そばくず50% (No.957)
(MS=5.0 Fat=8.0%)

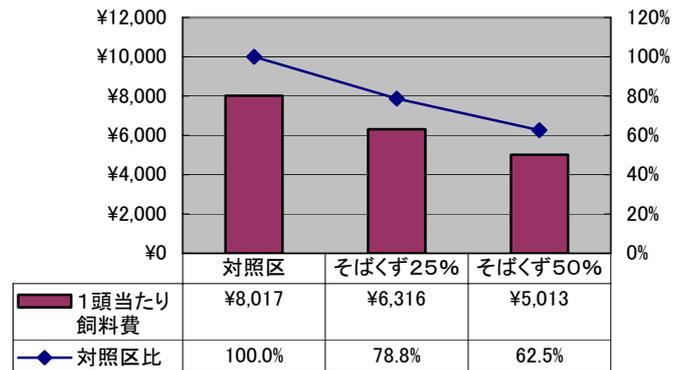


図1 飼料費(試算)

【2 どんな効果が期待できる?】

- 1 環境に優しい豚肉生産が可能。(従来は産業廃棄物として処理されていたものの有効利用)
- 2 飼料費の低減が可能。(豚1頭当たりの飼料費は最大で約3,000円低減可能)
- 3 特色のある豚肉生産が期待される。
(ロース中の脂肪交雑(いわゆる「サシ」)が多く入り脂肪の質も良好)

【3 留意していただきたいこと】

- 1 試験にはLWDの去勢を用い、肥育後期(体重60~110kg)に、試験区(そばくず25%混合給与)、試験区(そばくず50%混合給与)、対照区(配合飼料100%給与)を設定し肥育試験を行っています。そばくずは、そば粉配合割合約40%の乾麺くずを使用しています。
- 2 飼料費は、そばくずの単価は11円/kgとし、配合飼料(肥育後期用)の単価は46円/kgとして算出しています。
- 3 使用したそばくず(乾麺)100g中には、食塩相当量で1.65g含まれており、今回の試験では1日当たりそば25%区で14g、50%区で27g摂取したことになりますが、食塩中毒の症状は全く見られませんでした。塩分の過剰摂取にならないよう注意してください。